

秋田県の高齢者の生活を助けるためのサービスアプリの開発

秋田県立湯沢高等学校 3年 柴田光基

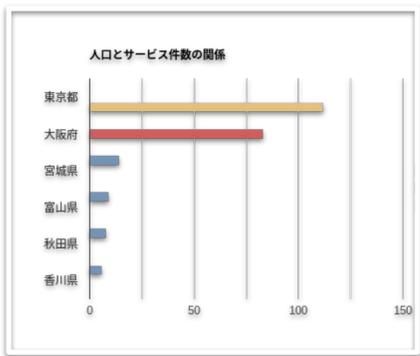
課題設定の背景

①情報化社会が進んでいく中で電子端末及びサービス・アプリ等を活用することができれば、高齢者の生活の支援につながるのではないかと考察し上記のテーマで探究活動を行ってきた。

②サービスアプリ開発に成功し、実際の現場での活動に貢献できたら今後の日本での高齢者の生活の援助にとどまらず、幅広い世代での生活支援の供給の拠点になるのではないかと考えた。

1. これまで調べたこと

秋田県に関わらず全国に高齢者支援サービスを実施している団体は数多く存在する。県別のサービス数を比較すると……



このように人口とサービス件数に大きな関連がある。さらに秋田県と人口の変化が少ない富山県と香川県と比較すると、人口減少の大きな影響力を再認識することが出来た。

2 調査結果

現在秋田県で行われている高齢者向け配達事業の中でいくつか魅力と世間からの評価を割り出してみた。

私が注目したのは株式会社シルバーワークさんの運営しているまごころ弁当さんである。おかずのみの配達やカロリー調整食など高齢者の生活を支援する上でとても重要な魅力になると思う。おかずのみの配達を実施しているのだが、これは高齢者が配達食品に依存しないための対策であると考えている。こうする事で自身で主食を作る機会があるからだ。そしてカロリーを調整した食品がこのメーカーのキャッチコピーになっているのだが、高齢者は低栄養の状態に陥りやすい研究結果が厚生労働省によって発表されているため体調管理にも配慮したサービスになっていることがわかった。そしてお弁当配達におけるデメリットとして味や品質の低さが要所所で目立っている事が調査を通してわかることが出来た。味に関しては個人の味覚の好みが大きく関連するのでサービスと顧客の関わりを深くするために個人に寄り添った事業として活動を深めていきたいと思う。



3. 考察

この探求データを作るにあたり私自身が望むシステムとして最も近いのがアメリカ合衆国のウーバー・テクノロジー社のUberEATSというアプリである。

日本で幅広い展開を広げている当社の金流システムは本来の注文料金の3割5分を手数料として店舗から顧客間の配達を担う事業スタイルがあるのだが、私の考察としてはこの手数料を固定料金プランを実施し、さらに長期にわたるサービスを利用してもらう為に日にちごとに契約内容を制作し、その場限りでは無い生活支援を実現させたいと思っている。

さらにこういったアプリを世間的に広めるにあたり最も必要なのは社会からの認知や事業と顧客の信頼の維持だ。

このような課題を元にデジタル社会へ高齢者層の適応と地域住民との憩いの場として現代の日本を担うアプリを作りたいと思う。

高齢者の情報社会へ触れる場を作るに加え、秋田県の労働者数の増加、企業と住民の繋がりを作ることでできる場になると考えていると考えている。



結論

秋田県の高齢者層の適応を推奨するためにこのようなメディア、情報社会を活用することで若者の求人、地域住民と企業の深い関わりの場を作るために高齢者向けの生活支援配達サービスアプリを開発することが今の私たちにできることであると捉えているので個人の生活に寄り添えるようなサービスアプリの制作を提言する。

提言

サービスアプリ開発については、私が大学に進学した際の研究や就職した際に制作したいと思うので、湯沢市長様には、資金面の援助と広告会社の誘致を提言したい。

参考

秋田県 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/5/>
富山県 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/16/>
香川県 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/37/>
宮城県 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/4/>
大阪府 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/27/>
東京都 <https://gohan.soudan-anshin.com/search/13/>
株式会社シルバーワーク様 まごころ弁当 <https://www.magokoro-bento.com/>
低栄養に関わる学術記事 <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/food/ye-021.html>